

What is a rebar engineer?

鉄筋工を知ろう。

8月7日開催

職場見学
バスツアー
実施レポート

九州新幹線（西九州）・新大村駅高架橋 工事現場

九州新幹線西九州ルートのうち、新大村駅(仮称)を中心とする約3Km区間工事の一部を見学させていただきました。使用される鉄筋は、約6,900トン！ 壮大かつ緻密な現場に終始圧倒されました。



基礎部分の鉄筋は、7人×2日で組まれたもの。壮観。



(左) 鉄筋で美しく組まれた柱部分。このあと型枠、コンクリート打設を経て高架橋の柱となる。熱心にメモを取る参加者の方。

(下) 目の前で、パズルのように鉄筋が組み上げられていく。その連携と手際の良さは見事の一言。



2

時津北小学校屋内運動場改築工事

屋内に仕切りがない建築物なので、使用される鉄筋は50トンほど(ほぼ基礎)。高架橋との作り方の違いや共通点など教えていただきながら、身近な建物の中の鉄筋について、肌で感じられました。



この後方では型枠の準備(型枠工)、左後方では足場の組立(鷹工)が行われていました。建物が徐々にできていく様子が一目でわかり、とても興味深かったです。



(左) 建築士から示される図面をもとに「実際に鉄筋をどう組むか」を図面にした配筋図の作成も、鉄筋工の仕事。元の図面との違いも面白い。参加者からも、建設場所による鉄筋の素材に違いはあるのか等、鋭い視点の質問もありました♪



(右) 工事現場でよく見かける情報板の見方も教えていただきました。安全衛生について、大切なことがたくさん!!

参加された方の声

鉄筋はパズルのように考えなくてはいけないし、それを早く仕上げるのはすごいことだと思いました。

鉄筋の仕事が思っていたのと全く違っていたので、すべての作業が新鮮に感じました。

鉄筋工はとてもやりがいのある仕事のように感じました。

現場の皆さんが「こんにちは！」と挨拶してくれて嬉しかったです。

ご参加ありがとうございました！

